

2019年7月

- 7日 豊中駅前七夕まつり
上野地域連絡会設立総会 傍聴
- 9日 豊中市伊丹市クリーンランド議会 ※
- 27日 前向きサロン・熊野田まつり
- 28日 上野連合自治会定例会・上野まつり



2019年8月

- 1日 豊中市・サンマテオ市親善少年野球交流40周年セレモニー
履正社高等学校市長表敬訪問・激励会
- 3日 第3回キッズ・ベースボールフェスタ
豊中まつりごみ分別ボランティア
- 4日 豊中まつりごみ分別ボランティア
- 7日 放課後子どもクラブ視察見学
- 8日 すこやかプラザキッズスペース視察見学
- 10日 堀田会館大掃除・大池まつり
- 21日 超党派視察(神奈川県平塚市)
- 22日 超党派視察(埼玉県三郷市)
- 24日 豊中市立原田南学校給食センター開所式
第2回豊中市・隠岐の島町シニア野球親善交流歓迎式典
曾根サマーフェスティバル・東豊台まつり
- 25日 寺内まつり
- 27日 議会運営委員会 傍聴 ※
- 28日 履正社高等学校優勝記念式典



2019年9月

- 1日 太鼓亭・佐野カップ決勝戦・表彰式
- 3日 議会運営委員会 傍聴 ※
9月定例会 本会議 ※
- 6日 建設水道常任委員会 傍聴 ※
- 7日 第5回とよなか国際交流フェスタ
上野連合自治会役員会
- 8日 ハニー・ビー法人設立10周年記念講演
- 9日 市民福祉常任委員会(神原在籍) ※
- 10日 文教常任委員会 傍聴 ※
- 12日 総務常任委員会 傍聴 ※
- 13日 上野小学校敬老の集い「えん(円・縁・宴)の会」
- 17日 豊中めぐり原田菜園稲刈り
「豊中かがやき大賞」贈呈式
梅花高等学校チアリーディング部「レイダース」
- 21日 交通安全フェア
- 23日 うえの歩こう会
- 25日 9月定例会 本会議 ※
- 26日 9月定例会 本会議 ※
- 27日 9月定例会 本会議(神原個人質問)最終日 ※
- 29日 交通安全教室



収支報告

2019年7月～9月分

収入	
議員報酬(注1)	¥1,923,000
合計	¥1,923,000
支出	
所得税	¥161,679
議員団費	¥9,525
事務所費用へ	¥900,000
生活費	¥851,796
合計	¥1,923,000

(注1) クリーンランド議会報酬含
(注2) イベント参加費・カンパなど
(注3) 勉強会参加費など



神原事務所 2019年7月～9月分

収入	
前月繰越残高	¥1,565,425
神原宏一郎議員報酬より	¥900,000
その他(注2)	¥10,000
合計(1)	¥2,475,425
支出	
家屋費(イベント会場)	¥223,562
光熱費	¥17,119
通信費	¥16,452
印刷費	¥34,429
備品費	¥0
消耗品費	¥3,600
交通費	¥0
人件費	¥433,500
その他(注3)	¥76,964
合計(2)	¥805,626
次月繰越(1)-(2)	¥1,669,799

インフォメーション

明日への架け橋
(前向きサロン)

日時: 11月2日(土)
午前: 10時～12時
場所: 堀田会館2階第1料理室
(阪急バス豊中高校前から徒歩5分)
参加費: 無料
主催: 前向きひろば
お問合わせは 06-6854-5664 まで

参加者みんなで情報共有・意見交換出来ればと思っています。
気軽にご参加下さい!!



発行元 リノベーション豊中(神原所属会派)

〒561-8501 豊中市中桜塚 3-1-1 ☎6858-2525(代表)

神原宏一郎事務所(前向きひろば)

〒560-0021 豊中市本町 3-1-20 エルビル 2階
TEL & FAX: 6854-5664

平日(土・祝日は除く)の10時から17時はスタッフがおります。

young_spiritjp@yahoo.co.jp

http://positive-square.sakura.ne.jp/

※この通信物は、政務活動費を使用し発行しています。



豊中の未来を描こう!!

かんばらこういちろう

神原宏一郎の
つながり通信

～生活・社会そして人・・・すべては政治とつながっている～

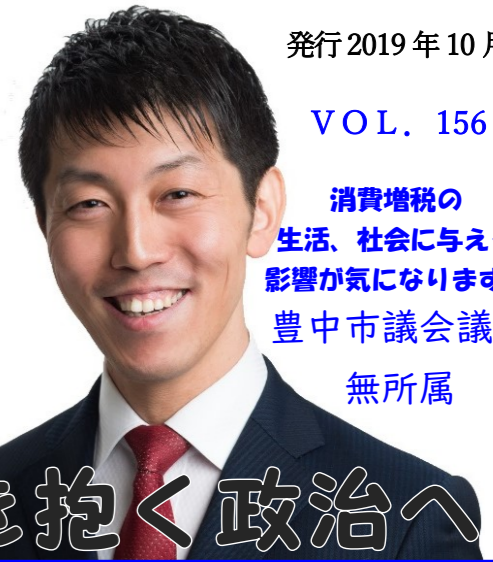
発行2019年10月

VOL. 156

消費増税の
生活、社会に与える
影響が気になります。

豊中市議会議員

無所属



関心・期待感・信頼感を抱く政治へ

10月定例会・個人質問と答弁

- ①働き方見直しの推進について～業務効率、生産性向上の追求を～
- Q. テレワークの導入は、業務効率の向上、通勤手当などのコスト削減、ワークライフバランスの向上、育児や介護に携わる職員の雇用継続、多様な人材の活用、災害時等の事業継続性の確保など様々な効果が考えられるが、テレワークを導入することに対する市の見解は?
- A. セキュリティ対策や適切な労務管理の確保など、整理すべき課題もあるが、生産性の向上や多様な柔軟な働き方を実現するツールの一つとなりうると考えており、テレワークを試行的に実施できないか、現在その手法について検討している。
- ★要望★テレワークは、整理すべき課題もあるが、市職員として働いている方々にとっても、今後、豊中市で働きたいと考えられる方にとっても、働き方の可能性が広がり、モチベーションの向上、市職員の魅力向上、新たな人材の確保につながり、結果的に市民サービスの向上にもつながるよう思います。部署や業務を限定しての試行的な導入から進めて欲しい。
- ②広報のあり方について～広報誌の関連経費1億4000万円は勿体ない～
- Q. SNSの活用拡大を図ると同時に、広報とよなかの発行部数や配布方法の見直しや、広報とよなかの発行に際する経費の削減に努めてはどうか? また、広報とよなかの発行状況と関連予算は?
- A. インターネット環境がない方もいるため、広報誌は今後も必要と考慮しているが、SNSによる情報発信が充実してきたことから、どの程度の方が広報とよなかから情報を入手しているのか研究する。広報とよなかの発行状況は、令和元年度で、月平均約20万2千部、関連する予算額は、約1億4千万円。
- ★意見★デジタル媒体にはほとんど経費がかからない一方で、広報とよなかには毎年1億円以上の税金が使われています。全く読みもしない方々に税金を使って広報誌を配布している手間と労力、税金の無駄について問題意識を持つべきです。
- ③文字の見やすさ、読み方について～文字のユニバーサルデザイン化の追求を～
- Q. 広報戦略において、文字の見やすさ、読みやすさをどのように考え、どのような工夫をしているのか? 文字の形が分かりやすく読み間違えにくい文字「ユニバーサルデザインフォント(UDフォント)」の活用を進めていくことが、有効的な手段の一つと考えるが、市の見解は?
- A. 広報誌では出来る限り読みやすくなるようフォントの大きさを選んでおり、UDフォントも平成29年度から採用している。また、ホームページでは、アクセシビリティの観点から、文字の大きさを利用者が任意に変更できる仕様としている。
- ★要望★広報誌に限らず、市民向けの発行物や行政文書についても、UDフォントの活用をはじめ、見やすさや読みやすさを意識した字体や大きさの文字を可能な限り使用して欲しい。
- ④授業時間数の確保について～物理的、精神的に余裕のある授業の実施を～
- Q. 豊中市では、数年前から夏休みを短縮し、2学期の始業を早めたが、夏休みの短縮は、授業時間数の確保が目的と考えて良いのか? 短縮が必要となった要因や背景は?
- A. 夏季休業の短縮は、エアコンが設置され教育環境が改善されたことで、日々の教育活動に余裕ある対応と充実を図ることを目的として平成27年度から実施している。



個人質問の詳細と神原の見解



1.働き方見直しの推進について

～業務効率、生産性向上の追求を!!～

Q. 今年度には、RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)導入に向けた実証実験を行うが、本格導入までに予定しているスケジュールと、具体的にどのような事業にRPAを導入するのか?

A. ソフトウェアによる入力作業などの自動化、いわゆる RPA については、今年度の実証実験と検証を行い、来年度に本格導入する予定。現在、導入を検討している業務は、主に税や保険分野の業務を対象としている。導入により期待される効果は、業務時間の短縮による生産性の向上や正確性の向上、現行業務の手順の見直しによる効率化などを想定している。

★意見★

働き方を見直すとは、朝9時から夕方5時まで、職場に来て、業務をこなすという固定概念を見直すことも重要ではないかと考えます。市の事業、業務の全てが決められた時間に職場に来て行わないと出来ないことばかりではなく、自宅でも行える業務も少なからずあるはず。働き方の見直しは、今後も柔軟な発想を持って、取り組んで欲しい。また、RPAやAIは上手く活用を図れば、事業、業務で効率化が図れると思いますので、様々な分野で本格導入すべきです。

2.広報のあり方について

～広報誌の関連経費1億4000万円は勿体ない!!～

Q. ここ最近、SNSを活用した情報発信に力を入れ始めたように感じている。市の広報媒体として、広報とよなか、ホームページ、Facebook、Twitter、Instagram、LINE、YouTubeがあるが、各媒体の長所や短所をどのように捉えているのか?

A. 広報とよなかは、毎月約20万部を全世帯・全事業所に配布することで広く多くの方に情報を届けることができる一方、月1回の発行のため即時性は低い。ホームページは、情報の即時性を有する一方、インターネット環境を持たない人は情報を得ることができない。ツイッターとフェイスブックは拡散力が高いこと、Instagramは写真を中心に利用者同士で情報を共感できること、ラインはプッシュ通知機能を有すること、ユーチューブを含む動画は動きや音声で分かりやすく情報を伝えることができるなど、それぞれに特徴がある。これらSNSは、ホームページと同様、インターネット環境を持たない人は情報を得ることが出来ない事が課題。

Q. 公式 SNS ツールをより広く活用し、市政情報や市の魅力発信につなげるために、市職員に、積極的にフォローやリツイート、シェアなどをしてもらってはどうか?また、SNSで広報とよなかの記事を頻繁に発信することで、アナログ媒体としての広報とよなかが不要になる方が増え、経費の削減になるのではないかと?

A. 市職員には、情報の拡散と、発信する情報を共有する点からも、公式SNSツールのフォローやシェアをもらえるよう呼び掛けている。また、SNSを使った広報誌掲載記事の発信は、現在も一部実施しているが、さらに充実を図っていく。

★意見★

新聞の購読率、購読者数が減少傾向にあり、アナログ媒体で情報収集を行っている方の割合や数が減っていることは間違いありません。にも拘らず、未だに広報とよなかを毎年約1億4000万円もかけて全世帯・全事業所に配布し続けていることは、あまりに無策ではないかと思えます。読んでみたくなる広報誌作りに力を入れることも大事ですが、広報とよなかを活用している方の割合や数の把握を早急に行うべきです。その上で、必要のない方には広報誌の配布中止を勧奨し、削減した経費を、ニーズや時代に合った広報手段に活用すべきです。

3.文字の見やすさ、読み方について

～文字のユニバーサルデザイン化の追求を～

Q. 広報誌やホームページに限らず、各部署で市民に対して発行している文書や冊子の文字についても、見やすさ、読みやすさをより高めるために、UDフォントの導入を進めるべきではないか?

A. 一部の自治体において、行政文書での活用事例もあるが、現在のところ、様々な事業者等が独自に作成し、統一的に定まっていない。現時点でのシステム環境において導入するためには、相当のコストがかかる。まずは、国等の動向もみながら、どのようなフォントをどのように活用するのが効果的なのか、情報収集し、研究する。

Q. 生駒市では、UDフォントは、一般的な教科書体のものとは比べ、弱視等の文字に対して困り感を抱える児童生徒だけでなく、全ての児童生徒にとって、学習達成感を感じられ、学習意欲の向上、学力向上が期待できるとして、各学校で作成するプリントなどの学習教材に、UDフォントを市内の全小中学校で導入された。豊中市でも、各学校で作成するプリントなどの学習教材や試験問題に、UDフォントを市内の小中学校に積極的に導入していくべきではないか?

A. 各学校においては、校内のパソコンでUDフォントが使える状況にあり、学校で作成しているプリント類などの学習教材等で既に使用している学校もある。教育委員会としては、様々な特性をもつ児童生徒が安心して学習に取り組むための手立ての一つであると考えている。

★要望★

市の「文書事務の手引き」では、基本的にフォントはMS明朝体、字体の大きさは11と定められており、分かりやすさや読みやすさに配慮した規定になっているとは言えず、UDフォントの活用をはじめ、手引きで定められている字体や字の大きさを改定すべきです。学校現場においても、現場の判断でUDフォントを使用している学校もありますが、個における合理的配慮だけでなく、学校生活における基礎的環境を整えるという観点で、各学校でのUDフォントの活用を進めて欲しい。

4.授業時間数の確保について

～物理的、精神的に余裕のある授業の実施を!!～

Q. 来年度から新学習指導要領の全面实施により、小学校では総授業時数が増加となる。ここ最近、毎年のように自然災害による休校が発生しているが、授業時間数の確保に対する見解は?今後、更なる長期休暇の短縮や、土曜日授業、7限目や8限目の導入といったことは検討しているのか?

A. 各学校ではこれまでも年間を通じて各教科等の授業時数の確保に努めており、自然災害やインフルエンザによる休校等に対応するよう努めている。今後も休暇の短縮や土曜日の授業等の導入の予定はない。

Q. 授業時間数の確保などを目的に、2学期制を導入している自治体があるが、小中学校に2学期制を導入することに対する見解は?

A. 2学期制と3学期制を比較した場合、2学期制は、評価する内容が多く、期間も長くなるので、児童生徒及び教職員に負担が生じることや学習の進捗状況が把握しづらいことがあり、当面は3学期制で実施していく。

★要望★

学期に縛られ、始業式や終業式などの行事を実施したり、中間・期末等の定期試験を実施しなければならないなどを考えると、2学期制にするだけで、授業時間数が一定確保できることは意義がある。2学期制に限らず、児童生徒にとっても、教職員にとっても、もっと物理的、精神的に余裕を持って授業に臨めるように、授業時間数の確保に、より一層、努めて欲しい。

神原宏一郎の個人質問の全容はホームページをご覧ください。



<http://positive-square.sakura.ne.jp/>

皆さまのご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

メールアドレス: young_spiritjp@yahoo.co.jp

